

グローバル化する労働問題 と働き方改革

トランプ大統領の登場により「アメリカファースト」という言葉が飛びかい、移民排斥、アメリカ国内の雇用拡大などが声高に叫ばれ、自国中心主義がやたらと吹聴されています。EU内の極右主義の台頭もグローバリズムに対する反対の声の象徴的な出来事として捉えられています。

翻って日本の現状はトランプ・安倍の両首脳の蜜月にみられるように、時代にただ巻き込まれているだけの印象さえ受けます。グローバリズム経済の中、日本の労働者は長時間労働と、非正規労働の蔓延により、明日への希望が見いだせない現状にあります。安倍内閣は「働き方改革」を政策に掲げてこれらを

改善するよう着手しているように見えますが、現実には繁忙期の100時間時間外労働など、職場の現実を無視して進められております。

今回の講演会はアメリカやヨーロッパの労働運動に詳しく、グローバリズムと労働運動について研究している篠田徹早稲田大学教授に講師をお願いしました。先生は「月刊自治研」や「月刊連合」等に様々な論文を寄稿して、労働組合の社会的役割とローカルからグローバルを変えるための発言をしています。関係する皆様のご参加をお待ちしています。

[講演会資料代 500円 会員無料]

★ お申込は自治研センターへ 電話 043-225-0020
FAX 043-225-0021
☆6月9日(金)までにお申し込み下さい

自治研センター 講演会のご案内

- 日時：2017年6月24日(土)
15時～17時
- 会場：千葉県教育会館本館 203会議室

<講演 講師紹介>

篠田 徹 氏
(しのだ とおる)



<現職>早稲田大学社会科学総合学術院教授
<略歴>1959年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程中途退学。北九州大学法学部専任講師、早稲田大学社会科学部専任講師、助教授を経て1997年より現職。専門は比較労働政治。

著書に『世紀末の労働運動』（岩波書店）、『2025年日本の構想』（共著、岩波書店）、『ポスト福祉国家とソーシャル・ガバナンス』（共著、ミネルヴァ書房）など。

●主催：千葉県地方自治研究センター